

1. 授業の概要

本科目は、幼年教育の専修科目（1回生対象）であるとともに、保育士コースの必修科目でもあり、(1)幼稚園・保育所の制度・内容・歴史、(2)子ども観・発達観・保育観、(3)環境を通しての教育、(4)幼児期にふさわしい生活、(5)幼児理解のあり方、などに関する基礎的知識の習得をめざすものである。

2. 受講学生

1回生：12名

幼年教育サブコース 6名

小学校サブコース 5名

特別支援教育コース 1名

3. 授業の工夫

(1)ノートテイクに労を費やさず、授業内容を理解することに集中できるよう、授業は記入式のプリントに従ってすすめた。

(2)学生が自らの意見や考えを持ち、それと照らし合わせながら理解を深めていけるよう（一方的な伝達にならないよう）、発問-応答のやりとりを多く取り入れた。

4. 授業評価の方法と結果

14回目授業日にアンケートを配付し、15回目（最終授業日）に持参させた。

5：たいへんそう思う（非常によい）

4：ややそう思う（よい）

3：どちらともいえない（ふつう）

2：あまりそう思わない（あまりよくない）

1：まったくそう思わない（よくない）

テーマ・目的は明確だったか	5.0
話し方は明確・聞き取りやすかったか	5.0
重要なことを強調したか	4.8
プリントに沿った授業は理解を助けたか	4.9
授業への熱意・工夫が感じられたか	5.0
課題は有益なものだったか	5.0
考えが培われたり得るものがあったか	5.0
学問をする雰囲気は保たれていたか	5.0
教職に就くうえで有益だったか	5.0

5. 授業時間外学習に関して

【課題1】4年間を見通した際、幼児教育の歴史を学ぶ機会が少ないので『児童中心主義の保育』（森上史朗著、教育出版、1984年、全7章、305頁）の各章の概要をまとめることを課し、学期末に提出させている。

【課題2】幼児教育に関する基礎的な用語や知識を習得させるため、毎授業時に4～7個の用語を指示し、次の授業時まで文献や辞書で調べた内容をレポートにまとめて提出させている。複数の辞書にあたること、辞書だけでなく概論書なども読み、その上で“自分の辞書”を作るつもりで、まとめるように指示している。

授業時間外学習についての学生の感想（抜粋）は以下の通り。

【『児童中心主義の保育』の要約について】

・この本を読む前と後では、「幼稚園教育要領」を読む際に、その文章が私に訴えかけているものの重さが全く異なるように感じました。

・この本を読み終えてから「幼稚園教育要領」を見返すと、以前と感じ方が変わっていることが実感でき、子どもが主体的に行う、環境を通じた保育がいかに大切かを学ぶことができました。

・保育に携わってきた先人の考えや様々な出来事などを知ることができ、これからの学びにつながる内容でした。

・今まで保育に関わってきたたくさんの歴史上の人物、どうして今のような保育へとつながったのかを知り、考えを深めることができました。厚い本で不安でしたが、読み進めていくと、楽しくてどんどん本に夢中になることができました。こんなにも難しそうなものは自ら手に取らないと思うので、この機会に読むことができるととても良かったです。これからも、このような本に少し手を伸ばしてみたいなと思いました。

・この本を読んだおかげで、保育に対する考え方が変化し、多くの知識を身につけられたように感じます。幼稚園は様々な人物の苦勞

の上に成り立っているのだと感じました。

- ・要約は大変でしたが、とてもおもしろく、これまでのたくさんの人々の保育の捉え方や何に重点を置いているか、倉橋の保育観など、ずっと読んでいられるほど興味深かったです。
- ・読み進めていく上で、保育者に必要なものを直感的に感じとれました。
- ・本が渡された時に絶望していましたが（厚さ、印象）、内容がわかってくるとともに、その内容が自分の知識になっていくのを感じて驚きました。私が興味を持っていた保育法も紹介されていて、おもしろかったです。
- ・モンテッソーリ法や誘導保育論など、世界各地でいろいろな時代に花開いた保育論の内容と、なぜその内容になったのかということを知るのがとても楽しかった。もっともっとたくさんの保育論を知りたいと思った。どれだけ読み砕いても理解できなかった点や、十分なまとめ方ができなかった部分があり、そこについて先生に教わりたい。この課題は、楽しく、人生の大きな糧となるものだった。

【用語調べについて】

- ・はじめは辞書や用語集を見てまとめるだけだったのが、次第に論文からも学んでまとめたりするようになって、保育に関する語句や知識がとても身についたなと感じています。
- ・今まで知らなかったことを多く学ぶことができました。実際に、他の講義での課題をする際に、自分の用語調べを活用することもあり、これからも自分なりに続けていこうと思います。
- ・探してもなかなか見つからない用語とかもあって、図書館で必死に探し回ったこともあったけれど、でもその経験が自分の力になっていると実感しています。実際、宿題で出された用語は、言葉は知っているけれど中身は全く分からないものであったり、そもそも知らないものであったり、少し知っているけれど、もっと深く理解できたものがあったりして、自分の中の知識量が一気に上がった気がして楽しかったです。
- ・知らなかったことをたくさん知り、自分の世界を広げられました。
- ・毎週の用語調べがなければ、今の自分は無いと思っている。
- ・保育に関する重要なワードを詳しく理解するのにとても役に立ちました。これからも、わからないワードが出てきたら、自分なりの辞書を作るようにしてみたいです。

6. 講義内容に関する感想（抜粋）

- ・保育者を目指し始めてから、保育の仕方や幼児との接し方などを知ること重点を置いて学んでいくことが重要だと思っていました。これらもとても大切ですが、幼児と関わるためには、子ども観、発達観、保育観を知り、保育を行う意義や目的を知っておくことが重要なのだと思いました。
- ・今まで、保育観や発達観をあまり気にしたことがなかったのですが、これらを理解することは、現在の保育を理解するうえで欠かせないものであると感じました。
- ・今後、多様な子ども観、発達観を知り、自分の子ども観、発達観について、くり返し考え直しをしていきたいと考えています。
- ・今まで、子ども観、発達観、保育観の全てにおいて、ふわっとした考えしかなく、「子どもが伸び伸び成長できるような環境を作りたいなあ…」と感じている程度だった私にとって、この授業は、私に軸を持たせ、「保育者」と「自分」を考える時間になりました。
- ・受講前、自分の中にある子ども観、発達観、保育観は、今までの自分の経験からのものだったけれど、詳しく学んでいく中で、現在の日本の幼児教育における保育観を学べて、自分の保育観が少し変わったなと感じました。
- ・保育というものがどのように捉えられており、現在どのような制度やシステムで成り立っているのかなど、幼児教育の奥深くまでのぞけたように思う。
- ・歴史や保育観について学ぶ授業が初めてだったので、どの内容も知りたいことばかりでした。

7. その他の感想（抜粋）

- ・授業の中で、青井先生の教育・保育への熱意や子どもへの理解・愛情を感じる事が多くあり、私もこんな風に子どものことを第一に考え、保育の意義についてしっかり理解し、保育できるようになりたいと思いました。
- ・先生がいつも全員が理解できるような解説を心がけていたり、一人一人に質問を投げたりしてくれるため、いつも楽しく、意欲的に授業に取り組むことができました。
- ・細かく丁寧な指導のおかげで、しっかりと内容を理解することができました。
- ・他の授業や自主学習でより詳しくたくさんのことを知り、将来、この授業や課題での知識が使えるようにしたいです。